

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻  
平成 28 年度修士学位論文

学籍番号	M941501
氏名	足立 睦未
学位	修士（理学療法学）
指導教員	森下 元賀
副指導教員	齋藤 圭介・川浦 昭彦
論文題目	回復期リハビリテーション病棟に入院中の脳卒中患者における運動イメージ能力の属性による相違と退院後の活動範囲との関連性
要旨 (200 字以内)	回復期病棟に入院中の脳卒中を呈した対象者 25 名に対して運動イメージの評価が退院後の活動範囲を予測する指標として用いることが出来るか検討した。その結果、運動イメージ評価は、検者内信頼性があり退院 1 ヶ月後の活動範囲との関連性もあるが、属性による影響も認めた。運動イメージの評価は退院後の活動範囲を予測する一助となることが示唆されたが、対象者の属性を把握した上で運動イメージの評価結果を捉える必要がある。

学籍番号	M941502
氏名	伊藤 創
学位	修士（理学療法学）
指導教員	川上 照彦
副指導教員	佐藤 三矢・元田 弘敏
論文題目	肩関節周囲炎患者の夜間痛に影響する因子の検討
要旨 (200 字以内)	本研究目的は、肩関節周囲炎患者の夜間痛に影響する因子を検討することである。対象は肩関節周囲炎患者 50 名であり、評価項目は、基本情報、夜間・安静・動作時痛の有無・程度、肩関節可動域、整形外科的テスト、X 線画像を評価した。夜間痛の有無を従属変数、その他の評価項目を独立変数とし、ロジスティック回帰分析を行った結果、肩峰烏口突起間距離が夜間痛の危険因子として抽出された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻  
平成 28 年度修士学位論文

学籍番号	M941503
氏名	梅田 匡純
学位	修士（理学療法学）
指導教員	河村 顕治
副指導教員	森下 元賀・川浦 昭彦
論文題目	長下肢装具の足背屈制動機能が正常歩行の関節モーメントに与える影響
要旨 (200 字以内)	脳卒中の歩行再建に対する下肢装具の使用は、脳卒中治療ガイドライン 2015 で推奨されており、中でも重度の麻痺には長下肢装具が導入される。しかし、生活期では使用頻度が低いとの諸家の報告も多く、実用歩行には短下肢装具への移行が求められる。その際、膝の安定性を得るために足背屈制動を付加するが、これには見解が分かれており検証の必要性があった。床反力解析の結果、長下肢装具における足背屈制動の有効性が示唆された。

学籍番号	M941504
氏名	多賀 一浩
学位	修士（理学療法学）
指導教員	中嶋 正明
副指導教員	河村 顕治・秋山 純一
論文題目	拮抗筋へのスタティックストレッチがハムストリングの柔軟性に及ぼす影響について
要旨 (200 字以内)	<p>【目的】股関節屈筋のストレッチ（Stretch ; St）によるハムストリング（Hamstring ; Hm）の柔軟性不良改善効果を Hm の直接 St による効果を対照に検証した。</p> <p>【方法】指床間距離が 0mm 未満の若年健常者に対して股関節屈筋（拮抗筋）St と Hm（対象筋）St を実施した。</p> <p>【結果】股関節屈筋の St は Hm の St と同等の Hm 伸張結果を示した。</p> <p>【考察】股関節屈筋（拮抗筋）St による静的伸張反射に基づく相反抑制は Hm の高い柔軟性不良改善効果を持つことが示唆された。</p>

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻  
平成 28 年度修士学位論文

学籍番号	M941505
氏名	長嶺 翔吾
学位	修士（理学療法学）
指導教員	齋藤 圭介
副指導教員	原田 和宏・川浦 昭彦
論文題目	回復期リハビリテーション病棟の高齢患者における排泄動作プロセスの特徴に関する基礎的検討
要旨 (200 字以内)	福岡県内 1 ヲ所の回復期リハ病に病棟に入院した脳血管障害患者と大腿骨近位部骨折患者を対象に、排泄動作の障害像の類型化を図り、ならびに得られた各集団の排泄動作自立予後との関連について検討した。その結果、両疾患同様な 3 つの集団に分類され、自立予後は異なる結果を示した。対象者を排泄動作プロセスの側面から類型化することが、自立を図るのか、介助量軽減を図るのかという介入指針となる可能性が示唆された。

学籍番号	M941506
氏名	増川 武利
学位	修士（理学療法学）
指導教員	井上 茂樹
副指導教員	河村 顕治・平上 二九三
論文題目	足部内側縦アーチの高さの違いが歩行周期、歩行中の足圧中心軌跡に与える影響
要旨 (200 字以内)	本研究では足圧分布計測システムを有するトレッドミルを用いて、足部内側縦アーチの高さの違いによる歩行動作の特徴を検討した。大学、専門学校生 26 名を対象に足部内側縦アーチの高さを 2 群に分類し、歩行分析の結果を比較検討した。検討の結果、足部内側縦アーチの低下した低アーチ群の歩行動作能力の高さが示された。本研究によって、内側縦アーチの低下した扁平足は、歩行動作能力を低下させる要因ではないことが示唆された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻  
平成 28 年度修士学位論文

学籍番号	M941507
氏名	富岡 真光
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	森下 元賀・川上 照彦
論文題目	変形性股関節症女性患者における手術療法後の歩行異常性に対する観察的評価の信頼性と妥当性
要旨 (200 字以内)	【目的】変形性股関節症女性患者における手術療法後の歩行異常性に対して、観察に基づく判定を可能とする評価項目の信頼性と妥当性を検証した。【対象】変形性股関節症女性患者における手術療法後 19 名であった。【結果】検者間信頼性・基準関連妥当性は「立脚中期での体幹傾斜角」、「踵離地での股関節伸展角」にて示唆された。また「立脚中期での体幹傾斜角」、「踵離地での股関節伸展角」は構成概念妥当性が支持された。